

横浜市立動物園等指定管理者業務仕様書付属資料

繁殖センター施設等一覧資料

1	施設一覧表	1
2	飼育動物一覧表	2
3	動物配置図	4
4	飼育動物の1頭あたりの飼料日量	5
5	清掃対象動物舎の清掃場所と回数	6
6	事業実績	7
7	光熱水費（令和3年～令和5年度）	9
8	ごみ処理量実績（令和3年～令和5年度）	9
9	施設設備概要書	10
10	重点保全種	11

※ 繁殖センターの管理業務に必要な資格等については、「よこはま動物園の管理業務に必要な資格等一覧」に準じます。

1 施設等一覧表

(1) 管理施設・便益施設

単位: m²

施設名	構造	面積	建築年月日	備考
・管理・研究施設	RC造 2階建		平9.1	
(1) 事務室①		47.93		
(2) 会議室		36.00		
(3) レクチャールーム		42.54		
(4) 書庫		18.00		
(5) 研究室		57.00		
(6) 実験室		90.63		
(7) バイオ実験室		33.44		
(8) 細胞培養室及び前室		32.99		
(9) 暗室		11.25		
(10) その他施設		286.47		
合計		656.25		

(2) 動物舎

単位: m²

施設名	構造	獣舎延床面積	放飼場面積	予備放飼場面積	建築年月日	備考
(1) バク・カンムリシロムク舎	RC造 2階建	1,446.96		1265.82	平9.1	
(2) カグー・トキ舎	RC造 平屋建	313.50		336.00		
(3) 予備鳥舎	RC+S造 平屋建	69.12			平16. 3	
(4) 動物病院検疫舎	RC造平屋建	226.35			平9	
合計		2,055.93		1601.82		

2 飼育動物一覧表 (令和6年3月31日現在)

(ア) 哺乳綱 MAMMALIA

和名 Japanese Name	現飼育数 Status		
学名 Scientific Name	03/31/24		
英名 English Name	♂	♀	?
奇蹄目	2	1	0
PERISSODACTYLA			
バク科	2	1	0
TAPIRIDAE			
マレーバク	2	1	0
<i>Tapirus indicus</i>			
Malayan Tapir			

(イ) 鳥 綱 AVES

和名 Japanese Name	現飼育数 Status		
学名 Scientific Name	03/31/24		
英名 English Name	♂	♀	?
キジ目	4	2	0
GALLIFORMES			
キジ科	4	2	0
PHASIANIDAE			
ライチョウ	3	2	0
<i>Lagopus muta</i>			
・スバルバルライチョウ	1	0	0
<i>Lagopus muta hyperborea</i>			
Svalbard Rock Ptarmigan			
・ニホンライチョウ*	2	2	0
<i>Lagopus muta japonica</i>			
Japanese Rock Ptarmigan			
コンゴクジャク	1	1	0
<i>Afropavo congensis</i>			
Congo Peacock			
ペリカン目	22	20	0
PELECANIFORMES			
トキ科	9	15	0
THRESKIORNITHIDAE			
ホオアカトキ	9	15	0
<i>Geronticus eremita</i>			
Northern Bald Ibis			
サギ科	12	5	0
ARDEIDAE			
ミゾゴイ	12	5	0
<i>Gorsachius goisagi</i>			
Japanese Night Heron			
ジャノメドリ目	5	5	0
EURYPYGIFORMES			
カグー科	5	5	0
RHYNOCHETIDAE			
カグー	5	5	0
<i>Rhynchotos jubatus</i>			
Kagu			
ハト目	2	4	0
COLUMBIFORMES			
ハト科	2	4	0
COLUMBIDAE			
オオミカドバト	2	4	0
<i>Ducula goliath</i>			
Goliath Imperial Pigeon			

スズメ目	47	47	0
PASSERIFORMES			
ムクドリ科	45	45	0
STURNIDAE			
カンムリシロムク***	45	45	0
<i>Leucopsar rothschildi</i>			
Bali myna			
アトリ科	2	2	0
FRINGILLIDAE			
カワラヒワ	2	2	0
<i>chloris sinica</i>			
Oriental Greenfinch			

(ウ)両生綱 AMPHIBIA

和名 Japanese Name	現飼育数		
学名 Scientific Name	Status		
英名 English Name	03/31/24		
	♂	♀	?
無尾目	0	0	1410
ANURA			
アカガエル科	0	0	1410
RANIDAE			
ニホンアカガエル	0	0	65
<i>Rana japonica</i>			
Japanese Brown Frog			
ムカシツチガエル	0	0	1345
<i>Glandirana reliquia</i>			
Proto Wrinkled Frog			

3 動物配置図



4 飼育動物の1頭あたりの飼料日量

哺乳綱

(単位:g)

奇蹄目

飼料名	甘蔗	燕甘蔗	ニンジン	キャベツ	リンゴ	バナナ	牧草 ルーナン	牧草草	ヘイキューブ	木の葉	固形飼料	フスマ	飼料添加剤
マレーバク	400	200	700	400	400		400	400	1,200	3,000	2,000	300	少量

サモシーまたはスタータン

木の葉:マテバシイ、シラカシ

鳥綱

キジ目

科名 動物名	飼	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗
ニホンライチョウ				60					3	2							50
ベトナムキジ				40					5								40
コンゴジャコウ	6	6	20	6	6	9	7	6	6	50	80	80	2	8	10	少量	50

ハト目

科名 動物名	飼	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗
オオミカドバト		7	7	1	7	7	10	8	7	7	4	20	少量	少量	10	20	2

ペリカン目

科名 動物名	飼	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗
ホオアカトキ		80	10			40											
シロゴイ		10	3	12	12	2	4	少量	少量								

ジャノメドリ目

科名 動物名	飼	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗
カグー		8	5	3	4	2	2	6	少量	少量							

スズメ目

科名 動物名	飼	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗
ガムシロム		9	5	3	5	13	5	1	10	10	14		1	2	少量	少量	少量
カワラヒバ				10								7			少量	少量	少量

繁殖期にはミルワーム・コオロギを
適量追加

両生綱

無尾目

科名 動物名	飼	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗	蔗
カエル類		適量(幼生)	適量(成体)														

5 清掃対象動物舎の清掃場所と回数

1 日常清掃

対象施設	作業内容と回数		収容動物
	寝室	パドック	
バク舎	毎日掃き掃除と水洗い	毎日の糞回収	アレーバ
シロムク舎	毎日水洗い		シロムク、ミゾゴイ、カワラヒワ
カグートキ舎	毎日掃き掃除と水洗い、糞回収		カグー、オオミカドバト、ホオアカトキ、コンゴクジャク
予備鳥舎	毎日の糞回収		ミゾゴイ、カワラヒワ
ライチョウ舎	毎日拭き掃除		ライチョウ
カエル舎	毎日の水替え		ニホンアカガエル、ムカシツチガエル

2 モート・プール清掃

対象施設	プール	収容動物
バク舎	糞便があれば毎日	アレーバ
シロムク舎		シロムク、ミゾゴイ、カワラヒワ
カグートキ舎		カグー、オオミカドバト、ホオアカトキ、コンゴクジャク
予備鳥舎		ミゾゴイ、カワラヒワ
ライチョウ舎		ライチョウ
カエル舎	年4回	ニホンアカガエル、ムカシツチガエル

3 消毒作業

・水量の多いプールやプールモートは2モート・プールの項を参照

対象施設	作業回数		収容動物
	寝室	パドック	
バク舎	毎日	プールは毎週	アレーバ
シロムク舎	週1回		シロムク、ミゾゴイ、カワラヒワ
カグートキ舎	毎日（ホオアカトキ）		カグー、オオミカドバト、ホオアカトキ、コンゴクジャク
予備鳥舎	週1回		ミゾゴイ、カワラヒワ
ライチョウ舎	毎日		ライチョウ
カエル舎	水槽清掃時は毎回		ニホンアカガエル、ムカシツチガエル

4 止まり木、植栽等入れ替え作業

・破損した場合はその都度交換する。

対象施設	作業回数		収容動物
	サブ運動場	パドック	
バク舎	不要		アレーバ
シロムク舎	最低3年に1回		シロムク、ミゾゴイ、カワラヒワ
カグートキ舎	最低3年に1回		カグー、オオミカドバト、ホオアカトキ、コンゴクジャク
予備鳥舎	最低3年に1回		ミゾゴイ、カワラヒワ
ライチョウ舎	最低3年に1回		ライチョウ
カエル舎	不要		ニホンアカガエル、ムカシツチガエル

6 事業実績

(1) 調査研究（3園共同研究は除く）

テ ー マ	対応園	対象動物
飼育下ミゾゴイの音声コミュニケーションに関する研究	繁殖	ミゾゴイ
ニホンライチョウの人工授精	繁殖	ニホンライチョウ
希少鳥類におけるトリ白血病ウイルス(ALV)病変に係る共同学術研究について	繁殖	鳥類

6 事業実績

(2)教育普及事業

ア 企画展等

実施日	名 称	内 容
3月2日～3月3日	第19回動物たちのSOS展(ブース展示)	繁殖センターの概要、カンムリシロムク野生復帰事業、ミゾゴイ保護事業、横浜市産カエルの保全活動、オガサワラカワラヒワ保護増殖事業への協力活動について紹介

イ 教室、園内ガイド、飼育体験等

実施日	名 称	内 容	参加人数	備 考
7月15日	タマンサファリインドネシアボーガー	施設見学	2名	
7月23日	東京動物園友の会	繁殖センター事業紹介、施設見学	30名	事前申し込み
8月20日	科学スクール	繁殖センター事業に関する講義、DNA抽出実験	14名	事前申し込み、中学生
9月5日	JICA研修員	施設見学	10名	
9月17日	横浜市動物園友の会	施設見学	30名	事前申し込み
9月29日	環境省対馬事務所	施設見学	3名	事前申し込み
10月22日	特別公開	繁殖センター内施設見学ツアー	35名	事前申し込み
1月8日	日本生物教育学会	講演	30名	事前申し込み
3月15日	東京動物園協会野生生物保全センター	施設見学	5名	
合計			157名	

ウ 学校連携

実施日	学校	人数	備考
5月13日	東京農工大学フィールドサイエンスセンター	25名	
7月10日	文教大学国際学部課国際観光学科	12名	
7月13日	横浜女学院中学校	12名	
9月12日	帝京科学大学	19名	
10月28日	東京農工大学フィールドサイエンスセンター	16名	
11月8日	神奈川県立旭陵高等学校	16名	
11月10日	神奈川県立旭陵高等学校	17名	
11月13日	神奈川県立旭陵高等学校	16名	

7 光熱水費（令和3～5年度）

単位：千円

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3 年 度	電気	342	299	273	306	332	297	293	317	575	621	590	530	4,775
	上下水道	38	70	81	85	84	65	67	35	43	43	37	42	690
	工業用下水道	122	136	136	154	188	182	142	93	110	101	86	109	1,559
	井戸水下水道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	都市ガス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	LPG	5	3	3	2	4	2	3	4	6	6	10	9	57
	白灯油	83	83	83	83	83	83	87	87	175	175	175	175	1,372
4 年 度	電気	486	410	389	508	523	530	520	716	1,101	1,025	815	639	7,662
	上下水道	37	40	47	78	93	67	46	36	41	48	40	37	610
	工業用下水道	255	127	145	225	198	182	194	191	125	111	111	140	2,004
	井戸水下水道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	都市ガス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	LPG	6	6	4	3	3	3	4	6	5	12	10	8	70
	白灯油	96	96	0	96	193	96	96	0	193	193	193	96	1,348
5 年 度	電気	469	405	341	424	416	402	360	456	595	663	596	592	5,719
	上下水道	34	37	51	101	96	67	51	32	37	41	35	37	619
	工業用下水道	147	152	141	162	136	129	125	104	96	96	92	91	1,471
	井戸水下水道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	都市ガス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	LPG	7	4	3	2	3	4	4	4	7	9	12	10	69
	白灯油	0	96	0	193	96	96	101	101	101	202	101	202	1,289

8 ごみ処理量実績（令和3～5年度）

単位：Kg

※粗大ごみ単位：m3

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3 年 度	可燃ごみ	2,390	2,360	2,150	2,020	2,000	2,010	2,090	2,270	2,170	2,310	1,960	2,290	26,020
	かん・びん	0	1	3	2	0	0	1	5	0	0	0	1	12
	プラスチック類	11	11	15	12	21	8	8	27	16	26	14	14	180
	粗大ごみ	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	0
4 年 度	可燃ごみ	2,160	2,050	2,000	2,100	2,170	2,060	2,270	2,160	2,320	2,470	2,270	2,410	26,440
	かん・びん	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	プラスチック類	16	18	20	16	33	25	15	6	36	12	6	10	210
	粗大ごみ	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
5 年 度	可燃ごみ	2,350	2,260	2,260	2,310	2,260	2,170	2,500	2,370	2,100	2,230	2,405	2,700	27,915
	かん・びん	-	-	3	-	-	-	-	2	-	-	-	11	16
	プラスチック類	18	37	16	35	28	22	18	22	16	22	29	20	280
	粗大ごみ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2

9 繁殖センター 施設・設備概要書（よこはま動物園と重複部除く）

動物舎

1 獣舎等

(1) 施設概要

RC造ほか 4箇所 床面積 2,056m²

(2) 業務内容

ア 床清掃 随時

イ 巡視点検 適宜

ウ 塗装補修・臨時処置 適宜

2 放飼場

(1) 施設概要 1,602m²

(2) 業務内容 排水管高圧洗浄 適宜

(3) 暖房設備

ア 床暖房 12基

業務内容 点検整備 1回/年

イ ガス給湯器 4台

業務内容 点検整備 1回/年

(4) 排水設備

高圧洗浄 適宜

(5) 放飼場プール 12カ所

業務内容 高圧洗浄 適宜

(6) 車両等

ア 設備概要

(ア) 自動車

EV 1台 (リース)

(イ) 自転車

11台 (電動 10台)

イ 業務内容

(ア) 車検手続、法定点検整備 適宜

(イ) バッテリー・タイヤ交換、故障対応等 適宜

(ウ) 充電装置点検整備 適宜

(7) その他

ア 冷凍庫 12基 4半期に1度の点検(第1種特定製品のみ)

イ 冷蔵庫 4基 4半期に1度の点検(第1種特定製品のみ)

ウ 遠心機 5基 年1回の自主点検(動力機械)

エ 圧力滅菌器 1基 年1回の自主点検(動力機械)

オ 乾熱滅菌器 3基 年1回の自主点検

カ 液体窒素タンク 12基 定期的な液体窒素の補充(目安2週間に1度)

コ 局所排気装置 1基 定期自主検査(年1回)

10 重点保全種（令和6年4月1日現在）全41種（3園および繁殖センター分）

1-1 海外保全種 26 種（哺乳類 18 種、鳥類 3 種、爬虫類 5 種）				対象園
哺乳類	双前歯目	セスジキノボリカンガルー		よ
	霊長目	テングザル		よ
		アカアシドゥ克蘭グール		よ
		ボルネオオランウータン		よ
		フランソワルトン		よ
		スマトラトラ		よ
	食肉目	ウンピョウ		よ
		チーター		よ
		ホッキョクグマ		よ
		インドライオン		よ
		ユーラシアカワウソ		よ
		ヤブイヌ		よ
		奇蹄目	マレーバク	
	クロサイ			よ・金
インドサイ			金	
長鼻目	インドゾウ		よ・金	
鯨偶蹄目	アラビアオリックス		金	
	オカピ		よ・金	
鳥類	キジ目	カンムリセイラン		よ
	ジャノメドリ目	カグー		繁・野
	スズメ目	カンムリシロムク		繁・よ
爬虫類	カメ目	ハウシャガメ		野
		ハミルトンガメ		野
		ヘサキリクガメ		野
		インドセタカガメ		野
		キバラクモノスガメ		野
1-2 国内保全種 6 種（哺乳 2 種、鳥類 2 種、爬虫類 2 種）				
哺乳類	食肉目	ツシマヤマネコ		よ
	齧歯目	アマミトゲネズミ		金
鳥類	キジ目	ライチョウ		金・繁
	ペリカン目	ミゾゴイ		金・繁
爬虫類	カメ目	リュウキュウヤマガメ		野
	有隣目	ミヤコカナヘビ		野
1-3 横浜保全種 9 種（両生類 4 種、魚類 3 種、昆虫類 2 種）				
両生類	無尾目	トウキョウダルマガエル	B	金
		ニホンアカガエル	B	金
		ムカシツチガエル	A	金
		ヤマアカガエル	B	金
魚 類	コイ目	ミヤコタナゴ	B	金・野
		ホトケドジョウ	B	金・野
	ダツ目	ミナミメダカ（横浜産）	B	金・野
昆虫類	コウチュウ目	ヘイケボタル（横浜産）	B	金
		ミヤマクワガタ	B	金

※重点保全種は、10年間の長期繁殖計画を策定する。（現計画は平成28年3月改定）

※横浜保全種にはA・Bのカテゴリーを設定

A： ■危険分散飼育や野生復帰を目的に飼育個体数の確保や繁殖技術確立と遺伝的多様性の維持を目的とした積極的な繁殖に取り組む種。繁殖計画及び繁殖目標シートを毎年策定する。

B： ■危険分散飼育や普及目的で飼育し、飼育個体を維持する程度の繁殖を行い積極的な繁殖は行わず、教育普及と生息域内保全に取り組む種。

【AからBに変更できる条件】

- ①野生での生息数や生息環境が安定している。
- ②繁殖技術が確立している。
- ③保護団体や行政と連携し、生息域内保全等に取り組むことが可能である。

※AからBに変更する場合には、変更年に繁殖計画書に今後の維持個体数や域内保全への取り組みや協力など具体的な取組予定、計画を提出する。（その後、毎年改定は必要ないものとする）

【変更後の条件】

- ①生息域内保全に取り組む。
- ②教育展示や危険分散飼育に必要最小限の繁殖を行う。
- ③繁殖計画及び繁殖目標シートは策定しない。

※重点保全種の対象の見直しについては、年度末に動物園課及び指定管理者間で調整後、種の保全収集委員会の保全収集計画検討部会にて検討し動物園課長（総括動物管理者）が決定後、種の保全推進委員会に報告をする。